

演習林の概要

沿革と概要

佐渡演習林は、新潟大学農学部附属演習林として 1955 年に発足しました。演習林は大佐渡山地北部の稜線沿いに約 500 ha の面積を持ち、その大部分は標高 600m 以上にあります。海洋性の気候帯に位置し、気温の変化は比較のおだやかで、降雪を含む年間降水量は約 2,000 mm になります。海からの湿った風によって、高い頻度で霧や雲で覆われる標高帯（雲霧帯）では、スギ天然林などの固有の森林群集が形成されています。12 月から 2 月にかけて、谷を沿って稜線付近に吹き上げるの西寄りの風は特に強くなり、稜線付近の積雪深や樹木の生長に影響を与えています。



佐渡島の海岸沿いに位置する演習林の風景



雲霧帯に分布するスギ天然林

佐渡演習林では、1980 年代まで、森林生産によって収益を上げながら教育を行う事業組織を目指し、盛んに造林が行われていました。しかし、傾斜の急な山腹部型の地形が演習林面積の大半を占め、人工林に最適な山脚部型の平坦地が少ないことや国産材の需要低下に伴い、その規模を縮小していきました。その一方で、生物多様性機能をはじめとする森林の環境保全機能が見直され、地域の自然保護と環境教育の拠点として重要視されはじめました。また、佐渡島内でも有数の高い自然度を備えた演習林は、自然科学分野の研究対象としても注目されています。

2001 年に設立されたフィールド科学教育研究センター佐渡ステーションを経て、2019 年には佐渡島内にある新潟大学の 3 施設（演習林、臨海実験所、朱鷺・自然再生学研究施設）が統合され、佐渡自然共生科学センターが設立されました。演習林では学内外を対象とする幅広い教育・研究活動、地域貢献や国際交流に関わる活動に携わっており、その基盤である演習林の維持管理等も行っています。

教育関係共同利用拠点

2012 年より文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定され、全国の大学等の実習を受け入れています。佐渡の多様な自然環境を活かし、利用者のニーズに合わせた様々な実習を行っています。演習林だけでなく、佐渡自然共生科学センターの他施設（臨海実験所、朱鷺・自然再生学研究施設）と協働し、佐渡島の森・里・川・海の各生態系の特徴や繋がりを学ぶ共同利用実習も行っています。

里 朱鷺・自然再生学研究施設



フィールド：里山二次林、里地（水田など）湖沼など



佐渡島は、森・里・海がお互いに近い場所にあり、各生態系は河川などによって繋がっています。

海 臨海実験所



フィールド：海洋、河川など

森 演習林



フィールド：森林全般、半自然草原など

共同利用実習 2024年度実績

実習件数	17件
利用機関数	41機関
利用延べ人数	700名以上

演習林の自然



演習林は、宿舎から東に約 5km 離れた場所にあります。大佐渡山地の北部稜線沿いに約 500ha の面積を持ち、その約 9 割を天然林が占めます。現在、演習林には約 500 種の植物と、多数の動物、菌類が生息しています。



枝打ちをしている様子

スギ人工林

主に木材生産のために、人の手によって苗木を植栽し、育てている森林です。優良な人工林を保つために、枝打ちや間伐などの施業を必要とします。



大倉川と溪畔林（大倉ゲート付近）

大倉川は演習林内を流れる河川です。上流から下流までの距離が比較的短く、急流となっています。上流から中流にかけては、両岸に溪畔林（ヤナギ、クミミ類など）が分布しています。河川の環境や魚類、水生昆虫の棲息状況を調査する実習も行っています。



風衝地

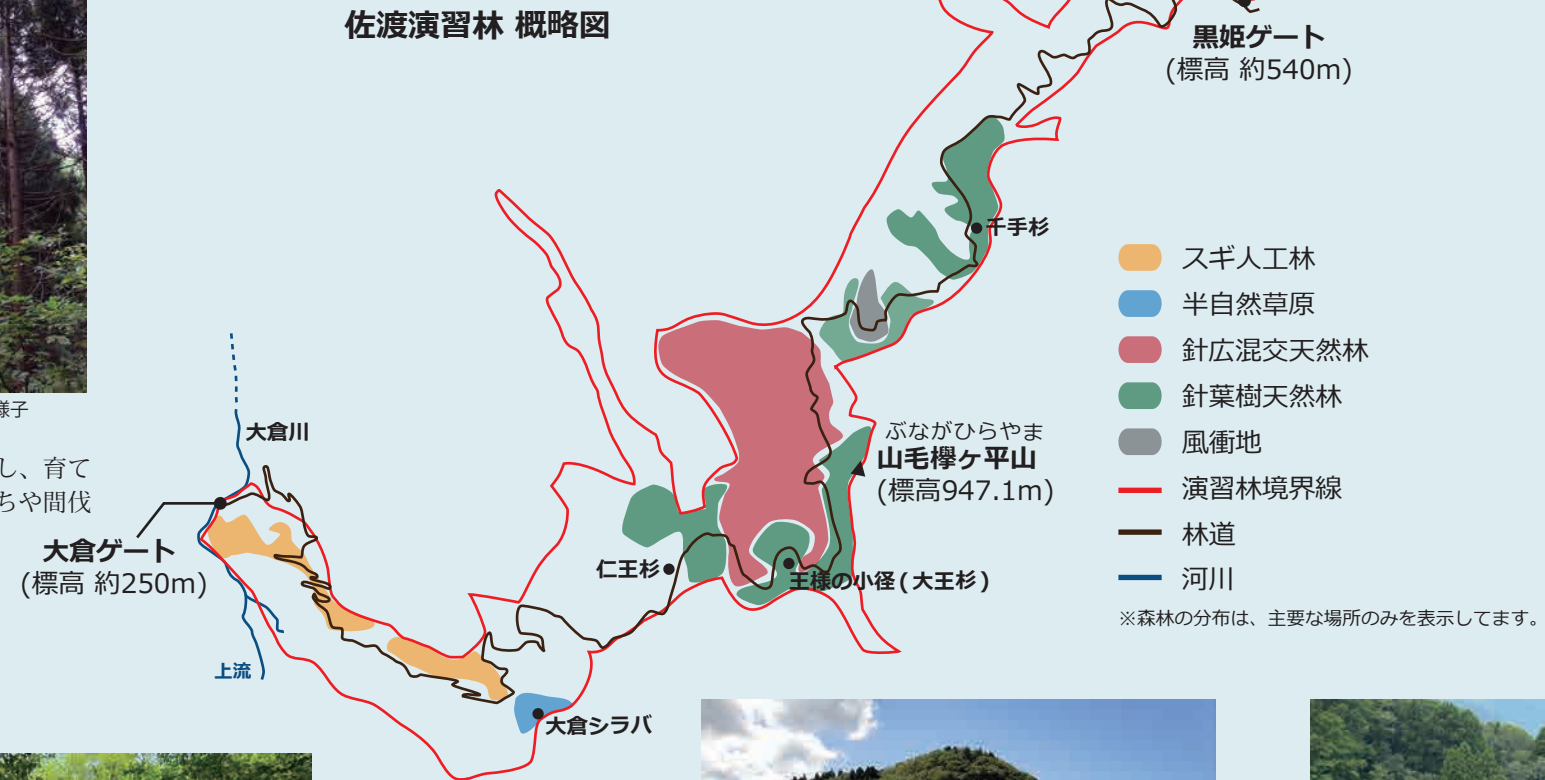
谷沿いから強風が吹き上げ、樹木は垂直に生長できず地を這うように生長します。また、演習林内の風衝地は、元々崩れやすい地盤（緑色凝灰岩）で、地すべりを引き起こしやすくなっています。



風衝地からは日本海が一望できます。



佐渡演習林 概略図



- スギ人工林
 - 半自然草原
 - 針広混交天然林
 - 針葉樹天然林
 - 風衝地
 - 演習林境界線
 - 林道
 - 河川
- ※森林の分布は、主要な場所のみを表示しています。



半自然草原

大倉シラバという名で呼ばれています。数年前まで地元の農家による牛の放牧が行われていました。放牧中止後も、その影響を受け、独特の植生が形成されています。



ハクサンジャクナゲなどの高山植物も生育しています。



演習林内には湿地帯が多く分布しています。雪解け水により池が出現し、両生類の貴重な産卵場所となります。



クロサンショウウオの卵塊

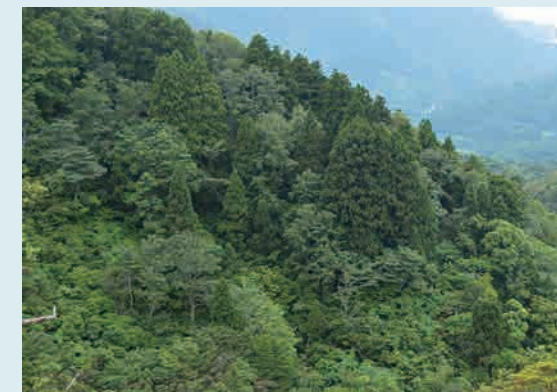


初夏には、ヨツバヒヨドリなどの蝶を求め、山頂付近までアサギマダラが上ってきます。



スギ天然林

針葉樹天然林のうち、大部分はスギを優占種とするスギ天然林です。冬の北西季節風の影響による旗状の枝、雪圧による枝の屈曲倒状や伏条更新など、日本海型天然スギの特徴をよく表しています。森林の観察に適したトレッキングコース（王様の小径）もあります。



針広混交天然林

演習林内の随所に分布しています。サワグルミ、ミズナラ、トチノキなどの落葉樹にスギ、ヒバ等が混成します。強風や積雪により、全体が矮性化し、森林の高さが大幅に低下します。



林道の管理

演習林内の林道は 1989 年に全線開通しました。開通後も、雪解けや台風などによる崩土、植物の繁茂を解消するため、必要に応じて整備を行っています。

単位認定について
単位認定を伴う実習の場合、単位認定の可否は実習のタイプや大学間の単位相互協定、国立・私立などの条件によって異なります。詳細は、本演習林のホームページや各大学の総務でご確認ください。

👤 教育

演習林の教員は、新潟大学農学部および大学院自然科学研究科の教育に関わっています。森林環境などを学ぶ学生を主な対象とした講義、人工林造成の一連の作業や森林保全などに関する野外実習を担当しています。野外実習では、経験豊富な技術職員も森林作業の技術指導などを担当します。

(学部生対象) 基礎農林学実習、野生植物生態学実習、持続可能な森林管理実習、フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習など

(大学院生対象) 島嶼生態学特論、野生植物生態学特論など



スギ苗の植栽



野営の現地訓練



樹木の同定作業



里山での生き物調査

🔬 研究

本演習林では、高い自然度を備えた多様な生態系の中、様々な視点で各分野の教員が研究を行っています。森林動態の長期観測をモニタリングサイト1000(環境省 生物多様性センター)のコアサイトとしても行っています。学内外研究者の共同利用研究も積極的に受け入れ、幅広い分野での研究活動を目指しています。また、佐渡研究室では学部、修士、博士課程の学生の研究指導を行っています。学生も海外を含めた様々な場所をフィールドとし、フィールド調査、分子生物学的手法など様々な視点で、多岐に渡る研究を行っています。



カラーチャートを用いた花色調査



希少な植物も多く、学内外から多くの研究者がやってきました。

主な実験機器と実習用具

(室内)

フリーザー (-30℃)、人工気象機、クリーンベンチ、オートクレーブ、分光光度計、分光光度計、純水製造装置、光学顕微鏡、双眼実体顕微鏡、動植物同定用図鑑各種(樹木、昆虫、動物、種子類)、液晶プロジェクター、ノートパソコン、コピー機など

(野外)

双眼鏡、照度計、土壌水分計、測量用コンパス、GPS、デジタル樹高計、鉋、ノコギリ、ヘルメット、チェーンソー、刈り払い機、木工機械類、捕虫網、昆虫採集器具など

※その他の機材の有無、個数などの詳細については別途お問い合わせ下さい。

🌿 地域貢献

地域貢献の一環として、佐渡エコツアーガイド、ジオパークガイドの養成講座の一部を演習林の教員が担当しています。平成20年より演習林内のトレッキングコースを佐渡エコツアーに提供し、毎年多くの人が訪れています(佐渡観光交流機構主催「神秘の大自然! 原生林と杉巨木群トレッキング」)。

この他にも、佐渡ゼミ、公開林間実習、佐渡市主催の環境フェアへの出展など、一般の方を対象とした催し物を開催しています。



公開林間実習は、毎年秋頃に開催しています。天然林のトレッキングや森林に生息する動物の観察などを行っています。



佐渡ゼミは島内外の研究者による一般向けのセミナーです。生物学を中心とした多分野にわたる最新の研究を分かりやすく紹介しています。毎年、不定期で5回ほど開催しています。

演習林では、共同利用実習、共同利用研究の受け入れを随時行っています。お気軽にご相談ください。

📖 利用の手引き

🏠 宿泊施設

演習林宿舍

宿泊室の他に、食堂、トイレ、風呂、洗濯機などの設備・備品があります。プロジェクター付の講義室、実験室もあり、様々な実習に対応可能です。

学生宿泊室 6部屋(各部屋2段ベット×3) 定員36名
教員宿泊室 1部屋(2段ベット×2) 定員4名
食堂(収容人数約40名)、講義室(収容人数約40名)など

<利用料金>

食費 2,600円/泊(弁当3食) ※食事の増減については別途ご相談下さい。
クリーニング代 春、秋期: 500円/1滞在 夏期: 700円/1滞在
施設使用料 教職員: 1,500円/泊 学生: 900円/泊
※学内実習などでは一部変更となる場合があります。必ず演習林HPをご確認ください。



講義室(約40名)



学生宿泊室



食堂(約40名)



シャワールーム



梶井ハウス外観



梶井ハウス台所(1階)



演習林公用車

👏 送迎

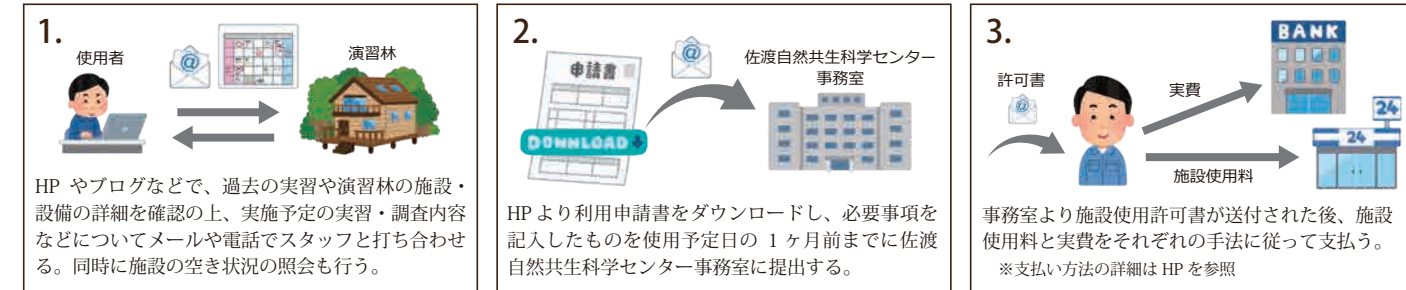
実習期間中の佐渡島内の移動は、演習林の公用車で行います。

車両送迎可能人数 27名

持病やアレルギー(食物、ハチ等)がある方は、利用申請時に必ずご申告ください。

使用予定日から7日前以降のキャンセルにつきましては、キャンセル料を利用料金の100%とさせていただきます。

🔄 利用の流れ



🗺️ 佐渡島までのアクセス

新潟 ⇄ 佐渡島

新潟-佐渡島間の航路は、佐渡汽船株式会社の船が就航しています。新潟港、直江津港の各港から定期的に出航しています。

- ・新潟港 ⇄ 両津港 カーフエリー 2時間30分
- ・新潟港 ⇄ 直江津港 ジェットfoil 1時間5分
- ・直江津港 ⇄ 小川港 高速カーフェリー 1時間40分

※船の時刻表などの詳細は、佐渡汽船ホームページでご確認ください。
<http://www.sadokisen.co.jp/>

※バスをご利用される場合は、海防線「小田農協支所前」停留所が最寄りです。バスの運行の詳細は、新潟交通佐渡株式会社のホームページでご確認ください。
<https://www.sado-bus.com/route/kaifu/>



国立大学法人新潟大学 佐渡自然共生科学センター 演習林

〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2
tel: 0259-78-2613 fax: 0259-78-2929 e-mail: sadoken2011@gmail.com
HP: <https://www.forest.sices.niigata-u.ac.jp/>
ブログ: <https://sadoken.blogspot.com/>

HP



ブログ



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行日 2025.11



国立大学法人新潟大学
佐渡自然共生科学センター 演習林

文部科学省教育関係共同利用拠点